

# 1. 仮設焼却システムの概要

## 1) 設置場所

福島県東白川郡鮫川村青生野地区

## 2) 敷地面積

1,600 m<sup>2</sup> (40m × 40m) 程度

## 3) 焼却炉能力

処理能力: 199kg/時間、1.5t/日

## 4) 運転条件

稼働時間: 原則として平日(月から金)8:00 から 17:00

焼却期間: 平成 26 年 9 月までに終了(600t 処理)する計画とします。

## 5) 排ガス中の放射性セシウム濃度

放射能濃度等測定方法ガイドライン(平成 23 年 12 月)に定める分析条件の検出下限値(2Bq/m<sup>3</sup>)以下とします。

## 6) 焼却処理対象物

表1 焼却対象物の種類別の量

単位(トン)

副産物の種類	放射性セシウム濃度		合計	備考
	8,000Bq/kg 以下	8,000Bq/kg 超		
稲わら	20	0	20	4,500Bq/kg
牛ふん堆肥	0	8	8	水分 70~80% 9,900、11,000Bq/kg
牧草	200	0	200	水分 50%程度 2,380、3,700Bq/kg
堆肥原料 落葉	10	20	30	網袋にて保管 1,000~30,000Bq/kg
庭木・立木	342	0	342	1m × 1~20cm(径)
合計	572	28	600	

注: 村内にある焼却対象物を焼却することとし、数量は見込みである。

## 7) 仮設焼却システムの処理フロー

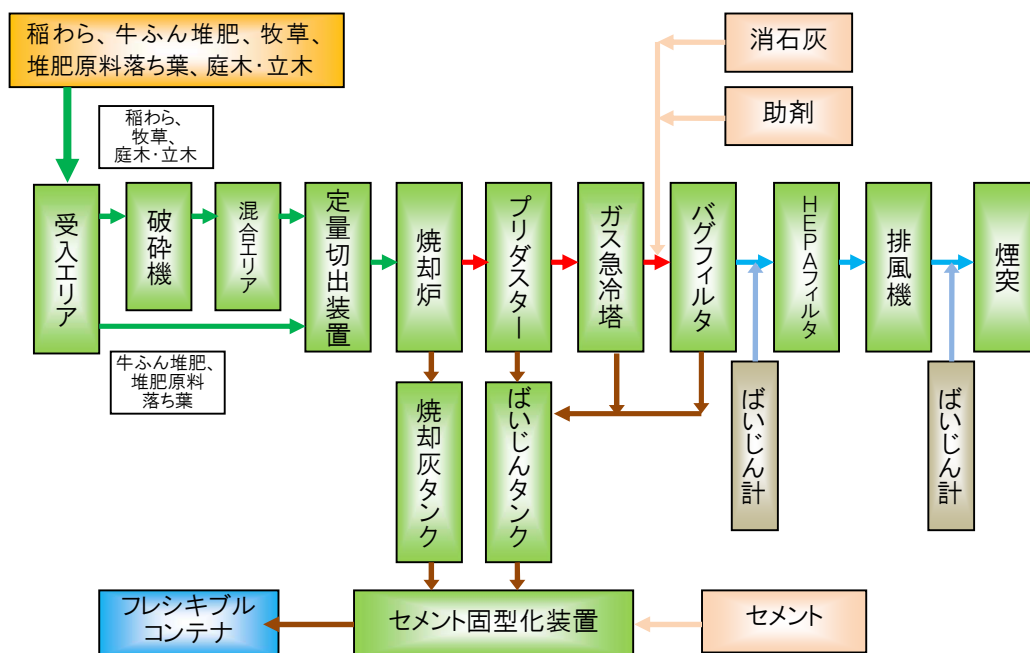


図2. 仮設焼却システムの処理フロー

- 焼却対象物は計量を行った後、受入エリアに搬入され、種類ごとに一時仮保管します。その際、線量率(表面および1mの距離)を測定します。
- 焼却対象物を破砕機で処理した後(牛ふん堆肥、堆肥原料落ち葉は粉碎不要)、混合エリアで混合し、定量切出装置へ投入します。
- 定量切出装置では、焼却対象物の投入量が時間あたり均一になるよう調節が行われ、コンベアにより焼却対象物を焼却炉へ定量的に供給します。
- 焼却炉から出る排ガスは、プリダスター(サイクロン集じん機)で処理され、ガス急冷塔で180℃まで急冷された後、バグフィルタでばいじんを除去し、煙突から排気します。さらに、バグフィルタの後にHEPAフィルターを設置します。
- 焼却炉下部から排出される焼却灰及びプリダスター・ガス急冷塔・バグフィルタで捕集されるばいじんは、それぞれ密閉されたコンベアにより、焼却灰タンク、ばいじんタンクに運ばれ一時貯留されます。一定量貯まった後、線量率を測定し、セメント固型化装置でセメントと混合し、固型化します。
- セメント固型化物は仮置き場へ運搬し、一時保管します。

## 8) 運転人員

表2 運転維持管理人員(予定)

名称	作業内容	数	単位	備考
所長	運営管理責任者、設備運転、保守管理、実証事業管理	1	人	常勤(受託企業等派遣)
副所長	運営管理補佐、設備運転、保守管理、実証事業管理	1	人	
施設作業員	収集運搬、受入供給、搬出、清掃、保守	3	人	交替勤務により常時3名(予定)
試験管理員	実証事業の計画、管理、指導	—	人	必要時に都度来所
分析員	分析、サンプリング	—	人	測定、サンプリング時に都度来所

## 9) 確認運転の概要

本格的な焼却処理運転に入る前に、以下の確認運転を行います。確認運転については、村及び監視委員会に公開して行います。

### ① 無負荷調整運転（3日間程度）

空焚きを行い、各装備・計器が正常に作動することを確認します。

### ② 負荷確認運転（3日間程度）

焼却状況（炉内各部の温度、ばいじん濃度等）を常時監視しつつ、実際に農林業系副産物を焼却し、安定した処理が行われていることを確認します。

放射性物質に関しては、運転期間中、施設周辺の空間線量を測定するとともに、焼却前の対象物及び焼却灰の放射性セシウム濃度、排ガス処理前後の放射性セシウム濃度及びばいじん濃度を測定し、

- ・排ガス中の放射性セシウムが管理目標値以下に除去されていること
- ・ばいじん濃度の常時監視により、放射性セシウムの管理目標値の監視ができていること

などを確認します。

### ③ 確認運転結果の報告・公表

確認運転期間中の空間線量は毎日測定データを村に報告・公表するとともに、放射性セシウム濃度等の分析結果が得られ次第、確認運転結果全体を村及び監視委員会に報告・公表した上で、運転に進みます。